

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,276	t-CO <sub>2</sub>
（温室効果ガス削減換算排出量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,276

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量	2,283	t-CO <sub>2</sub>	2,215	t-CO <sub>2</sub>	2,276	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）			3.0	%	0.3	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
原単位当たりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位当たりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

昨年度は異常な暑さ寒さの為、病院運営に関して患者さんに快適に病院で過ごしていただくことを第一に考えないといけないため、空調機器の調整が難しかった。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動実践 (冷暖房)	(A) 中央の空調機タイマー制御の見直し (深夜時間帯停止) (B) 定期的にフィルタを清掃し能力低下を防ぐ	・空調機の無駄な運転、利用を避ける。	取組内容に記載したものは行ったが、気候が暑さ寒さが激しかったため、タイマー調整が難しかった。
省エネルギー・省資源の行動実践 (照明)	(A) センサー付き照明器具の採用拡大 (B) 省エネ型の照明器具の採用拡大 (C) 不必要な照明の消灯を徹底する (D) スマートメーター取付による電気使用量の把握	・職員の1人1人の節電意識の向上。	節電に関しては、積極的に取組みました。
廃棄物の排出抑制	(A) 細かく分別し、資源リサイクルに努める (B) 院内で使用する資料については、積極的に裏紙を利用する (C) グリーン製品を積極的に購入する	・環境に優しい病院作りを目指す。	環境に対する取組は、総務通達を行ったり徹底した。
自動車等輸送機関に関する対策	(A) アイドリングストップ・エコドライブを徹底 (急発進・空ふかし等しない) (B) 職員はEVの使用を控え、階段を利用する (C) 勤務時間内の移動の際は、社用自転車の使用を意識する	・地球環境の保全を意識した職員1人1人の行動徹底	職員1人1人の行動に関して、総務通達を行ったり徹底した。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO <sub>2</sub>

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日
---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

前年から出ている効果を継続させつつ、職員一人一人が節電等を意識している。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・電気、空調等の切り忘れに注意していただくように職員にアナウンスする。
- ・職員の時間外労働を減らすように促す。
- ・法人内の移動は社用車の仕様を控え、社用自転車を推奨する。